

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

市では児童生徒一人ひとりに、新しい時代に必要となる資質・能力を育成するために、全国学力・学習状況調査を行い、学力や学習の状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善などに活用しています。今年度は、国語、算数・数学が実施されました。

この調査により測定できるのは、児童生徒の学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面であることに留意して結果・分析をご覧ください。

- 調査日 令和6年4月18日（木）
- 対象者 小学校6年生（市内9小学校）447人、中学校3年生（市内4中学校）401人
- 調査内容 教科に関する調査、生活習慣や学習環境などに関する児童生徒質問紙調査

教科に関する調査

調査科目		平均正答率の比較・調査結果の概要	今後の取組
小学校 6年生	国語	○全国・長野県と同程度 全国的に課題とされた取材メモを基にして書く問題などの記述式の問題が、全国と比較してよくできています。効果的に話したり書いたりして伝える力を見る問題でやや課題がありました。	「だから、～と思います」「このことから、～と考えます」など、自分の考えを表す言葉を発言や文章のなかで使うことができた場面をとらえ、その表現の効果をおおいに認めていくなどの指導を続けていきます。
	算数	○全国・長野県と同程度 ボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く問題が、全国と比較してよくできています。全国的に課題とされている「速さの意味について理解」では同様の傾向も見られました。	単にやり方を習得していくような学習ではなく、日常生活の場面に照らし合わせて妥当性を判断していくような学び方で、割合や速さの意味・表し方の理解を深めていきます。

調査科目		平均正答率の比較・調査結果の概要	今後の取組
中学校 3年生	国語	○全国・長野県と同程度 全国的に課題とされた記述式の問題が、全国と比較して無答率も低くよくできています。発言で指し示している図・資料の適切な部分を選択する問題でやや課題がありました。	文章とともに示されている図表や写真について「それがあることでどんな作者の意図がわかるのか」を考えるような学習を充実させていきます。
	数学	○全国・長野県と同程度 全国的に課題とされた箱ひげ図の問題が、全国と比較してよくできています。全国的に課題とされている「データの分布の傾向を捉え、判断の理由を説明すること」では同様の傾向も見られました。	言葉と数を使って根拠を示しながら説明し合う活動を継続し、答えが正解ならば終わりという授業ではなく、主体的に別の解き方についても追究していくような学習を充実させていきます。

※「平均正答率の比較・調査結果の概要」は、千曲市と全国や長野県の公立小・中学校との平均正答率を比較するなどの分析から、市内の児童生徒の学習状況の特徴や課題を記述しています。

これを踏まえ「今後の取組」は、これから小中学校で取り組んでいく指導の方向を記述しています。

生活習慣や学習環境などに関する児童生徒質問紙調査

区分	質問	はいと回答した割合 (%) () は令和 5 年度		全国との比較
		小学校 6 年生	中学校 3 年生	
自己 有用感	自分にはよいところがある と思いますか	87.8 (87.4)	86.9 (83.1)	全国と比べて、小 6 児童、中 3 生 徒とも上回っています。
	先生は、あなたのよいと ころを認めてくれている と思いますか	93.6 (92.9)	95.5 (92.9)	全国と比べて、小 6 児童、中 3 生 徒とも上回っています。
生活習慣	朝食を毎日食べています か	96.0 (96.3)	93.8 (91.1)	全国と比べて、小 6 児童、中 3 生 徒とも上回っています。
家庭学習 習慣	学校の授業以外に、平日 1 時間以上勉強していま すか	45.1 (52.2)	65.7 (62.4)	全国と比べて、小 6 児童は大き く下回っています。中 3 生徒は 同程度です。
	学校の休みの日に、1 時 間以上勉強していますか	49.0 (53.7)	72.3 (72.0)	全国と比べて、小 6 児童は同程 度です。中 3 生徒は大きく上回 っています。
GIGA スクール	これまでに受けた授業 で、PC・タブレットなど の ICT 機器を、週 3 回以 上使用しましたか	92.8 (83.0)	97.7 (87.4)	全国と比べて、小 6 児童、中 3 生 徒とも大きく上回っています。
地域や社 会に関わ る活動	地域や社会をよくするた めに何かしてみたいと思 いますか	86.1 (75.3)	86.4 (72.8)	全国と比べて、小 6 児童は上回 っています。中 3 生徒は大きく 上回っています。

※上記の『「はい」と回答した割合』は、「1 当てはまる」、「2 どちらかといえば当てはまる」、「3 どちらかといえば当てはまらない」、「4 当てはまらない」の選択肢の中から「1」または「2」を回答した児童生徒の割合です。

○自己有用感

自己有用感は、「失敗を恐れなくて挑戦する」といった、子どもたち一人ひとりが将来にわたってよりよく生きていくためのエネルギーにもなります。周囲の人が、自分のよさを認めてくれるなかで自己有用感はより高まります。例年「先生は、よいところを認めてくれている」と感じている児童生徒が全国と比較して多く、特に中学校 3 年でも学校の先生と良好な関係を築けていることが本市の大きな強みです。

○生活習慣

本市の小中学生は、大変規則正しい生活をしていると言えます。各家庭でも、頭と体の働きを活性化させる「朝食」のよさについてもう一度見直してみてください。

○学習習慣

平日の家庭学習時間にやや課題があります。家庭学習の方法や内容の指導、家庭学習につながるような毎日の授業についてより一層の工夫・改善をして、自ら計画的に学習をすすめていく態度の育成に努めていきます。

○GIGA スクール

市では全国と比較しても一人一台端末を大変よく活用しています。「共同で学び合うツールとしてのコンピュータ活用」に向けて、より有意義に一人一台端末を活用して学びを深めていくことを意識して取り組んでいきます。

○地域や社会に関わる活動

総合的な学習の時間などでふるさとを学ぶ学習や学習発表会が展開され、私たちの地域のあるべき姿について考える機会を得ているためと考えられます。

今後の対応について

■各学校

- 調査結果を全職員で分析・ 考察し、これまでの指導の成果と課題を明確にしたうえで具体的な改善策、向上策を講じていきます。「共通課題」については、学校経営ビジョンにも反映させ、児童生徒一人ひとりの学力の向上を目指し、全教職員で共有して取り組んでいきます。
- 基本的な生活・学習習慣の確立が学力の向上を図るうえで重要であるとの認識に立ち、家庭と連携して、生活・学習習慣の改善に向けた取り組みに努めます。
- 児童生徒個々の結果については、個別懇談会などを通じて各家庭に伝えるとともに、それぞれの課題に応じた学習指導を適切に行っていきます。

■市学力向上推進委員会

- 市内小中学校の学力向上推進委員が中心となり、今回の結果を分析し、「授業改善のポイント」「生活・学習習慣改善のポイント」などを提言し、各校の授業改善、児童生徒の学習習慣の定着に活かします。

■教育委員会

- 市内小中学校の状況を共有し、必要な指導や支援を行います。また、教職員の研修や配置、GIGAスクール構想の推進など、教育施策の充実に努めます。